

農林水産政策白書

ひょうごみどり白書

2025

兵庫県

目 次

はじめに	1
白書作成の趣旨と内容構成	1
「ひょうご農林水産ビジョン 2030」の概要	2
ひょうごの農林水産業の概要	7
第1章 ひょうごの農林水産施策の取組	11
第1節 総括	11
第2節 施策の取組状況－施策の目標と評価－	19
基本方向1 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開	
1 スマート化による新しい農林水産業の実現	20
2 多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開	21
3 需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化	25
4 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進	27
5 豊かな海と持続的な水産業の実現	29
6 農林水産物のブランド力強化と生産者所得の向上	31
7 食の安全を支える生産体制の確保	32
基本方向2 県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出	
8 特色を活かした活力ある地域づくりの推進	33
9 農山漁村の防災・減災対策の推進	35
10 豊かな森づくりの推進	36
基本方向3 「農」の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実	
11 食と「農」に親しむ楽農生活の推進	37
12 「農」と多様な分野との連携強化	37
13 県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進	38
第2章 トピックス －「農」をめぐる最近の情勢－	39
特集1 「農」に携わる人材確保の推進	40
特集2 兵庫県産米の新たな需要の開拓～期待の新品種と伝統の酒米～	41
特集3 環境創造型農業拡大に向けた取組～環境創造型農業サミットなどを開催～	42
特集4 担い手が不足する地域における新たな担い手の受入体制の構築と地域計画実現に に向けた取組推進	43
特集5 ハラル牛肉の輸出拡大に向けた取組～三田食肉センター輸出拡大コンソーシア ム～	44

特集6	イカナゴ肥育放流試験の実施	45
特集7	県民緑税を活用した災害に強い森づくりの推進	46
特集8	脱炭素社会実現に向けた主伐・再生林の推進	47
特集9	兵庫五国が誇る、多彩な食材の出口戦略～ 国内・海外における認知度向上や販路 開拓への取組 ～	48
特集10	本県農林水産業の未来を切り拓く！～県立農林水産技術総合センターによる開発 技術～	49
特集11	ひょうごの「農」の元気な活動（表彰事例の紹介）	51

参考 55

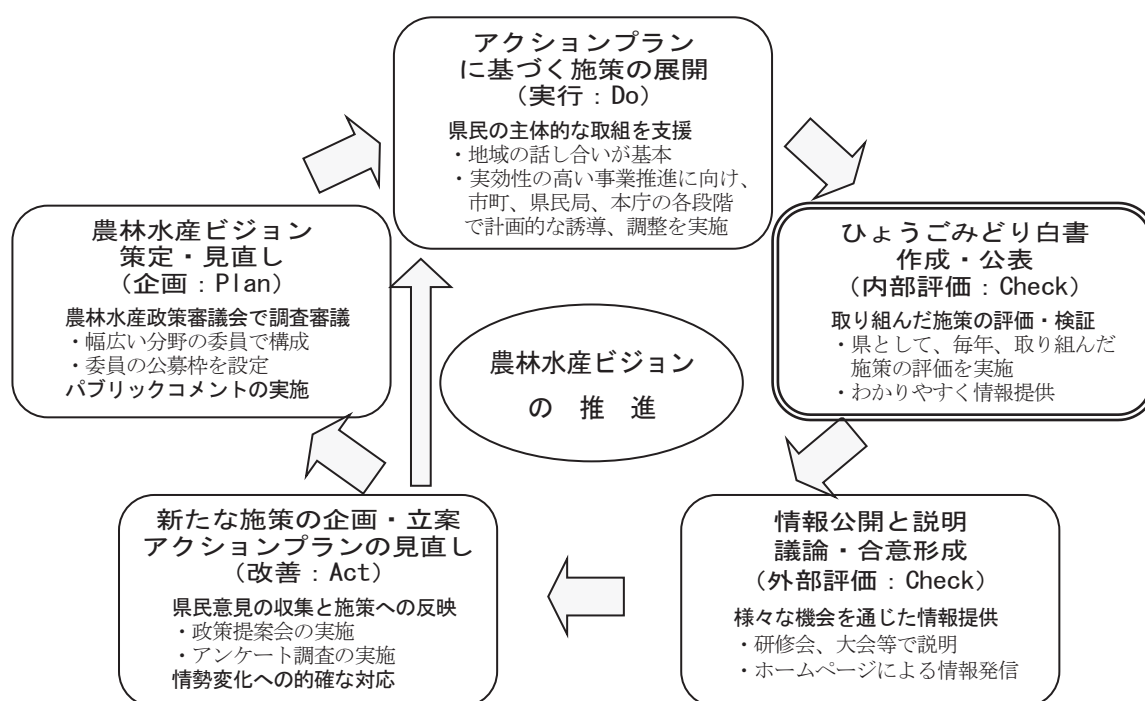
農林水産技術の開発・普及体制	56
参考付表	58

はじめに

白書作成の趣旨

私たちの「いのち」と「くらし」を支える基盤である農林水産業・農山漁村の持続的な発展を図るため、本県では、農林水産行政推進の基本となる、計画的かつ総合的な指針として「ひょうご農林水産ビジョン」を策定し、このなかで、おおむね10年後のめざすべき農林水産業・農山漁村の姿と、その実現に向けた施策の目標を掲げ、これに基づいて施策を進めています。

目標達成に向けて各施策を効果的に進めていくためには、Plan（計画）、Do（実行）、Check（点検・評価）、Act（改善）のいわゆるPDCAサイクルを活用し、施策の点検・評価や改善を継続的に実施していくことが重要であり、この「ひょうごみどり白書」は、毎年度、実施している施策が、目標に向けてどのように進んでいるのかを自ら点検・評価し、今後重点化を図らなければならない課題を明確にするとともに、この結果を県民の皆さんにわかりやすく情報提供することを目的として作成しています。



白書の内容構成

第1章 ひょうごの農林水産施策の取組

「ひょうご農林水産ビジョン2030」に掲げる総括的指標の直近状況と令和6年度における農林水産施策の取組状況や成果指標に関する進捗状況等をまとめています。

第2章 トピックス —「農」をめぐる最近の情勢—

ひょうご農林水産ビジョン2030のめざす姿（御食国ひょうご 令和の挑戦～都市近郊の立地を活かした農林水産業の基幹産業化と五国の持続的発展～）とSDGsは、農林水産業・農山漁村を含め「持続可能な地域づくり」をめざす観点で合致しており、それぞれは2030年を目標年に定めている点でも共通しています。

そこで、最近の「農」をめぐる話題の事例の中から、ビジョンのめざす姿の実現とSDGsの達成に向けた取組をトピックスとして紹介します。

「ひょうご農林水産ビジョン 2030」の概要

めざす姿

みけつくに

御食国ひょうご 令和の挑戦

～都市近郊の立地を活かした農林水産業の基幹産業化と五国の持続的発展～

新型コロナウイルスの影響を乗り越え、販売チャネルの多様化を図り経営基盤を強化した経営体が増加しています。また、UJI ターン、二地域居住に対する関心の高まりに各地域が積極的に対応することにより地域が活性化しています。

さらに、SDGs の理解が深まり、都市近郊の立地を活かして実需者や消費者と直接結びついた持続可能な力強い農林水産業が展開されています。近年多発する自然災害への対応として防災・減災対策が進み、農福連携や農泊など「農」と多様な分野との連携による新たな取組が県内に広がり、県民が安心して暮らせる活力ある地域が創出されています。加えて、ひょうごの「農」がもたらす恵みが県民はもとより国内外でも享受され、ひょうごの「農」にかかわるすべての人々の健康で豊かな暮らしに結びついています。

基本方向

■基本方向1 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開

スマート化による効率化、産品毎のブランド力の強化、多様な人材が農業を支え合う地域協働体制の構築、販売チャネルの多様化、海外市場の開拓等により、基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開をめざす。

【農業】

都市近郊の立地を活かし、施設野菜など野菜の生産拡大や、農業の法人化と経営力の強化、企業参入の促進による次代を担う担い手の育成、農地の集積・集約化等を進め、実需と結びついた競争力の高い農業の展開をめざす。

【畜産業】

但馬牛繁殖雌牛の増頭による但馬牛・神戸ビーフの生産体制の強化、需要に応じた生乳生産の増産等を進め、安全・高品質な畜産物の生産強化をめざす。

【林業】

人工林の適正な経営管理のもと、県産木材の利用促進を図り、植林・保育・伐採・利用の林業サイクルが継続する資源循環型林業の構築をめざす。

【水産業】

適正な栄養塩管理等による豊かで美しい海の再生、経営感覚に優れ意欲ある漁業者等の育成による収益性の高い力強い漁業の確立をめざす。

■基本方向2 県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出

地域ぐるみの協働活動や地域資源の活用などによる中山間地域の農村コミュニティの活性化や、災害に強い安全・安心な農山漁村の暮らしの確保、防災機能・公益的機能など森林の機能向上等により、県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出をめざす。

■基本方向3 「農」の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実

「楽農生活」の更なる推進や農福連携等多様な分野との連携強化により、ひょうご五国の特徴ある多自然地域や農林水産業の維持・活性化、県産農林水産物の安全・安心で安定的な供給体制の強化により、「農」の恵みによる県民(生活者)の健康で豊かな暮らしの充実をめざす。

ビジョンの施策体系

【めざす姿】【基本方向】

【推進項目】

【推進方策】

御食国ひょうご 令和の挑戦 都市近郊の立地を活かした農林水産業の基幹産業化と五国の持続的発展

I 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開

- 1 スマート化による新しい農林水産業の実現
- 2 多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開
- 3 需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化
- 4 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進
- 5 豊かな海と持続的な水産業の実現
- 6 農林水産物のブランド力強化と生産者所得の向上
- 7 食の安全を支える生産体制の確保

- (1) スマート農業の展開 (2) スマート畜産業の展開 (3) スマート林業の展開 (4) スマート水産業の展開
- (1) 本県の強みを活かし需要と直結した生産の新展開 (2) 次代を担う経営力の高い担い手の育成 (3) 農地利用の最適化と効率的な生産基盤の確立 (4) 地域の多様な人材が支え合う持続可能な地域協働体制の確立 (5) 環境創造型農業（人と環境にやさしい農業）の取組拡大
- (1) ひょうごの畜産を支える多様な担い手の確保 (2) 但馬牛の増頭と但馬牛・神戸ビーフ生産拡大 (3) 牛乳・乳製品の生産基盤強化 (4) 高品質な鶏卵・鶏肉・豚肉の安定生産 (5) 高品質な堆肥の生産と広域流通・耕畜連携の推進
- (1) 県産木材の利用拡大と加工流通体制の強化 (2) 森林資源の循環利用と林業経営の効率化
- (1) 豊かで美しい海の再生と水産資源の適正管理 (2) 漁業の担い手確保と経営力の強化
- (1) 更なるブランド戦略の展開 (2) フードチェーンづくりと高付加価値化の支援 (3) 新たな価値の創出
- (1) 安全で適正な農薬使用の推進 (2) 生産段階における適正な生産工程・衛生管理等の導入拡大 (3) 畜産農場における HACCP 対応や畜産 GAP の取得の推進 (4) 口蹄疫や豚熱、鳥インフルエンザ等重大家畜伝染病の発生・まん延防止 (5) 安全安心な二枚貝の流通に向けた貝毒監視体制の整備

II 県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出

- 8 特色を活かした活力ある地域づくりの推進
- 9 農山漁村の防災・減災対策の推進
- 10 豊かな森づくりの推進

- (1) 中山間地域における地域活性化の推進 (2) 野生動物の管理や被害対策の推進 (3) 農村地域の多面的機能発揮の促進 (4) 都市農業を核とした地域づくりの推進 (5) バイオマスの活用を通じた地域活性化の推進 (6) 内水面における水産資源の維持と地域活性化の推進
- (1) ため池災害の未然防止とため池避難対策 (2) 山地防災・土砂災害対策の推進 (3) 漁港の耐震化と津波・高潮防災対策の推進
- (1) 森林の適正管理の徹底による公益的機能の維持・向上 (2) 森林の防災機能の強化を図る「災害に強い森づくり」の推進 (3) 森林病虫害被害対策の推進と保安林制度等の適正運用 (4) 県民総参加による森づくりの推進

III 「農」の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実

- 11 食と「農」に親しむ楽農生活の推進
- 12 「農」と多様な分野との連携強化
- 13 県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進

- (1) 令和の時代のライフスタイルの提案 (2) 楽農生活に誘い、定着を図る仕組みづくり (3) 楽農生活をサポートする体制づくり
- (1) 農福連携の取組強化 (2) 観光分野との連携強化
- (1) 卸売市場を通じた安定供給の確保 (2) 県産県消の推進 (3) 食品に対する消費者の信頼の確保

施策推進状況の評価方法

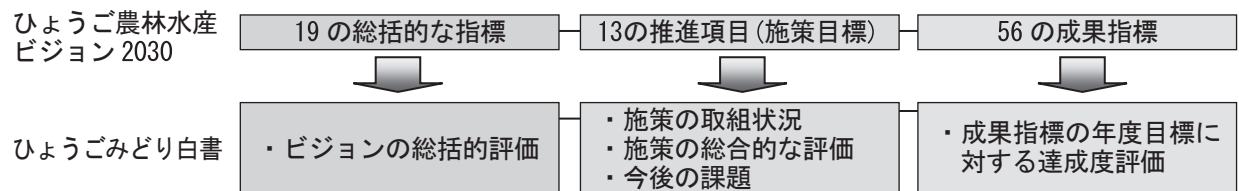
「ひょうご農林水産ビジョン2030」に掲げる13の推進項目ごとに56の成果指標を設定しており、施策目標の実現に向けた取組を評価するために、各指標の年度目標に対する達成度を次の基準で評価します。

〔成果指標の評価基準〕

評価	評価基準	
◎	達成率が100%以上	(年度目標を達成)
○	達成率が90%以上100%未満	(年度目標をおおむね達成)
△	達成率が80%以上90%未満	(年度目標を下回る)
▲	達成率が80%未満	(年度目標を大きく下回る)
※	現時点で達成度の評価が困難	

また、施策目標に対する総合的な評価を行うため、成果指標の評価結果に基づく施策進捗状況の判断基準を参考に、天候等の外的要因も加味して、数値評価になじまない内容も含めた施策の総合的な評価を行います。そのうえで、今後、取り組むべき課題を整理します。

さらに、ビジョンに基づく活動成果として、本県農林水産業の動きを推し測るとともに、めざす姿への到達度を測るため、農業産出額、畜産産出額、林業・木材産業産出額、漁業産出額等を総合的な指標として設定しています。



成果指標

1 総括的指標

各分野の産業活動を測るため、総括的指標として19項目を設定

区分	指標名	令和元年度(起点)	令和7年度(中間目標)	令和12年度(目標)
農業	農産物生産量(千t)	474	490	494
	うち野菜生産量(千t)	283	287	290
	うち米・麦・大豆生産量(千t)	191	193	194
	農業産出額(畜産業を除く)(億円)	940	986	988
	法人経営体数(法人)	610	910	1,170
	優良農地面積(ha)	61,621	61,197	61,136
畜産業	但馬牛繁殖雌牛飼養頭数(頭)	14,060	15,200	16,000
	畜産業産出額(億円)	569	626	651
	法人経営体数(法人)	127	139	149
	1経営体あたりの但馬牛繁殖雌牛飼養頭数(頭)	12.8	16.2	20.0
林業	素材生産量(千m ³)	443	527	623
	林業・木材産業産出額(億円)	594	602	634
	意欲と能力のある林業経営体(経営体)	29	34	38
水産業	漁船漁業・海面養殖生産量(千t)	110	115	119
	うち漁船漁業生産量(千t)	44	46	47
	うち海面養殖生産量(千t)	66	69	72
	漁業産出額(億円)	485	468	490
	漁業者1人あたりの漁業産出額(千円)	11,516	11,642	12,830
	漁場環境改善面積(ha)	5,467	5,579	5,749

2 施策項目ごとの成果指標

各施策における取組とその成果をよりの確に評価するため、成果指標として56項目を設定

区分	指標名	令和元年度(起点)	令和7年度(中間目標)	令和12年度(目標)
基本方向 1	施設園芸における高度な環境制御技術の導入面積(ha)	18.9	41.0	60.0
	土地利用型作物等における主なスマート農業技術利用面積(ha)	959	6,000	12,000
	畜産における主なスマート畜産技術導入経営体数(経営体)	23	51	70
	野菜生産量(t)	282,548	286,600	290,000
	うち施設野菜生産量(t)	21,220	24,400	27,100
	高温に強い水稻品種の導入面積(ha)	2,331	2,900	5,050
	麦・大豆生産量(t)	8,560	9,298	9,917
	うち丹波黒大豆生産量(t)	890	1,466	1,950
	生産緑地面積(ha)	501	501	501
	法人経営体数(法人)	610	910	1,170
	新規就農者数(人)	200	300	300
	集落営農組織化集落数(集落)	1,075	1,300	1,500
	実質化された人・農地プラン策定集落数(集落)	433	1,700	2,500
	担い手への農地集積率(%)	24	48	66
	パイプライン化した農地面積(ha)	12,012	12,700	13,200
	環境創造型農業取組面積(ha)	20,429	22,800	24,600
	うち有機農業取組面積(ha)	1,024	1,500	1,850
	但馬牛繁殖雌牛頭数(頭)	14,060	15,200	16,000

区分	指標名	令和元年度(起点)	令和7年度(中間目標)	令和12年度(目標)
基本方向1	畜産法人経営体数(法人)	127	139	149
	畜産業の新規就農者数(人)	31	30	30
	但馬ビーフ供給頭数(頭)	6,313	7,550	8,400
	うち神戸ビーフ供給頭数(頭)	5,523	6,420	7,200
	生乳生産量(t)	77,376	84,100	96,000
	県認証食品(鶏卵、鶏肉、豚肉)の生産量(t)	23,200	26,600	29,400
	県内製材工場の製品出荷量(千m ³)	46	65	92
	木質バイオマス発電用燃料供給量(千m ³)	168	211	248
	主伐・再造林面積(ha)	33	50	120
	県内素材生産量(千m ³)	443	527	623
	林業の新規就業者数(人)	51	30	30
	森林施業プランナー数(人)	53	59	64
	漁船漁業・海面養殖生産量(千t)	110	115	119
	うち瀬戸内海(千t)	99	103	106
	うち日本海(千t)	11	12	13
	漁場環境改善面積(ha)	5,467	5,579	5,749
	漁業者1人あたり漁業産出額(千円)	11,516	11,642	12,830
	漁業の新規就業者数(人)	43	45	45
	海外市場開拓数(品目毎の累計)(国・地域)	143	200	250
	うち日本酒の海外市場開拓数(国・地域)	21	33	43
兵庫県産米の輸出量(t)	56	75	100	
神戸ビーフ輸出量(t)	36	44	50	
兵庫県認証食品認証数(品目)	2,172	2,300	2,400	
基本方向2	野生鳥獣による農林業被害額(百万円)	493	397	324
	シカ肉のジビエ等利用率(%)	20.4	30.0	35.0
	多面的機能支払交付金の取組面積(ha)	50,171	50,700	51,000
	中山間地域等直接支払交付金の取組面積(ha)	5,317	5,700	5,800
	ため池整備により安全性が向上した箇所数(箇所)	44	232	382
	山地災害危険地区の防災工事の着手済箇所数(箇所)	3,481	3,710	3,900
	主要岸壁の耐震化、津波・高潮防災対策済漁港数(漁港)	6	13	16
	「新ひょうごの森づくり」整備済面積(千ha)	155	182	206
	「災害に強い森づくり」整備済面積(千ha)	35	46	52
	森林病虫害被害(松枯れ)面積(ha)	849	650	500
基本方向3	楽農生活交流人口(万人)	1,108	1,160	1,224
	農福連携取組件数(件)	112	260	300
	ごはん食普及啓発実践活動参加者数(万人)	108	110	112
	県産農林水産物を購入している人の割合(%)	69	70	70
	直売所の利用者数(万人)	2,846	3,580	4,180

ひょうごの農林水産業の概要

1 多彩なひょうごの農林水産業

兵庫県は、「日本の縮図」ともいわれるように、北は日本海、南は瀬戸内海及び太平洋に続く紀伊水道に面し、中央部には中国山地が東西に横たわり、高原、平野、島々など広大に変化に富んだ地形と厳寒、降雪、乾燥、温暖という様々な気候が存在するなど、他府県に類を見ない多様な自然環境を有しています。さらに、歴史的に形成されてきた特色ある固有の風土、文化を有する摂津（神戸・阪神）、播磨、但馬、丹波、淡路といった5つの地域で構成されており、多様な自然環境のもと、それぞれの地域の気候・風土に根ざした多彩な農林水産業が営まれています。

生産量で全国順位の上位を占める農林水産物が多く、主なものとして、農産物では、山田錦（酒米）（1位）、丹波黒（黒大豆）（1位）、たまねぎ、いちじく、カーネーション、また、水産物では、シラス（1位）、イカナゴ（1位）、ノリ養殖（1位）、ホタルイカ（1位）、マダイ（1位）、ズワイガニ、ハタハタ、エビ類、スズキ類などがあります。

また、神戸ビーフ、明石鯛などは、全国的にも有名なブランドとして知られています。

地域的には淡路地域など農林水産業の盛んな地域を有する一方、人口の多い神戸・阪神地域を有する消費県でもあります。このため、食料自給率（令和5年度）は、カロリーベースでは16%（全国38%）、生産額ベースでは40%（全国61%）と全国よりも低い水準となっています。

〔全国上位を占める主な農林水産物〕

項 目		生産量等	全国シェア	全国順位	県内の主な産地	備 考（資料）
米	山田錦〔酒米〕(出荷量)	18,274 t	54.0%	1	播磨地域	農林水産省「令和6年産米の農産物検査結果(確定値)」※山田錦出荷量は検査数量ベース
豆	丹波黒〔黒大豆〕(収穫量)	569 t	46.3%	1	丹波・播磨地域	県農産園芸課調べ（令和6年）
野菜	たまねぎ（収穫量）	77,600 t	6.9%	3	淡路地域	農林水産省「令和6年産野菜生産出荷統計」
	レタス（収穫量）	21,600 t	4.0%	6	淡路地域	〃
	しゅんぎく（収穫量）	1,110 t	4.8%	6	神戸・阪神地域	〃
	はくさい（収穫量）	17,900 t	2.2%	9	淡路地域	〃
	キャベツ（収穫量）	21,900 t	1.7%	11	淡路・神戸地域	〃
果実	いちじく（収穫量）	1,161 t	11.7%	4	神戸・阪神地域	農林水産省「令和4年産特産果樹生産動態等調査」
	びわ（収穫量）	82 t	3.8%	7	淡路地域	農林水産省「令和6年産果樹生産出荷統計」
	くり（収穫量）	348 t	2.5%	8	丹波・阪神地域	〃
花き	カーネーション（出荷量）	15,400 千本	9.0%	4	淡路地域	農林水産省「令和6年産花き生産出荷統計」
	花壇用苗もの類(出荷量)	23,400 千本	4.7%	6	神戸・播磨地域	〃
畜産物	生乳(生産量)	72,684 t	1.0%	15	播磨・淡路地域	農林水産省「令和6年牛乳乳製品統計」
	肉用牛(飼養頭数)	57,200 頭	2.2%	10	淡路・播磨・阪神・但馬地域	農林水産省「令和7年畜産統計」
	鶏卵(生産量)	102,024 t	4.1%	10	播磨地域	農林水産省「令和6年畜産物流通統計」
	ブロイラー(出荷羽数)	12,985 千羽	1.8%	12	但馬地域	農林水産省「令和6年畜産統計」
	はちみつ（生産量）	64 t	2.4%	13	播磨・阪神地域	農林水産省畜産振興課調べ（令和6年）
水産物	シラス（漁獲量）	15,851 t	31.5%	1	瀬戸内海	農林水産省「令和5年漁業・養殖業生産統計」
	イカナゴ（漁獲量）	1,224 t	55.7%	1	瀬戸内海	〃
	ノリ養殖（収穫量）	49,836 t	24.8%	1	瀬戸内海	〃
	ズワイガニ（漁獲量）	524 t	21.9%	2	日本海	〃
	ハタハタ（漁獲量）	90 t	15.9%	4	日本海	〃
	ホタルイカ（漁獲量）	2,664 t	74.1%	1	日本海	県水産漁港課調べ（令和5年）
	エビ類（漁獲量）	1,363 t	11.4%	2	日本海	農林水産省「令和5年漁業・養殖業生産統計」
	タコ類（漁獲量）	702 t	3.1%	6	瀬戸内海	〃
	カレイ類（漁獲量）	1,506 t	4.7%	3	日本海・瀬戸内海	〃
	ペンギンガニ（漁獲量）	1,786 t	13.4%	4	日本海	〃
	マダイ（漁獲量）	1,820 t	12.4%	1	瀬戸内海	〃
	カキ（漁獲量）	8,407 t	5.6%	4	瀬戸内海	〃
	スズキ類（漁獲量）	489 t	10.0%	2	瀬戸内海	〃

2 農林水産業の概要

●農業の現状

本県の農業産出額は1,677億円（全国21位）で、近畿地方（6府県）の34%を占めており、京阪神都市圏の食料生産基地として重要な地位にあります。

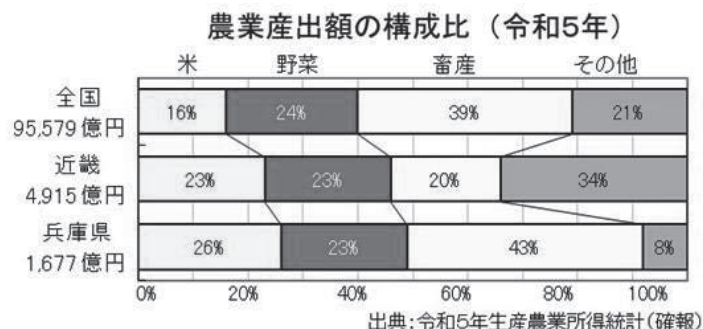
農業産出額の構成比を見ると、米（26%）、野菜（23%）、畜産（43%）で全体の約92%を占めており、全国と比べると米の比率が高くなっています。

基幹的農業従事者の平均年齢は70.6歳と全国（67.8歳）よりも高く、高齢化が進行しています。

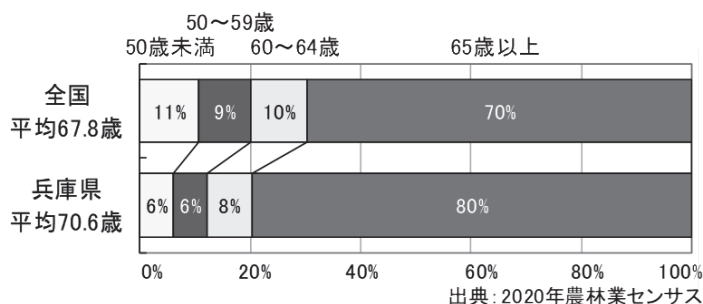
耕地面積は、70,500ha（全国18位）です。そのうち水田面積は64,500ha（全国12位）で、耕地全体に占める割合は全国（54%）と比べると極めて高く、91%となっています。

一経営体当たりの経営耕地面積は1.2haで、全国（3.1ha）の半分以下であり、小規模な経営が大半を占めています。

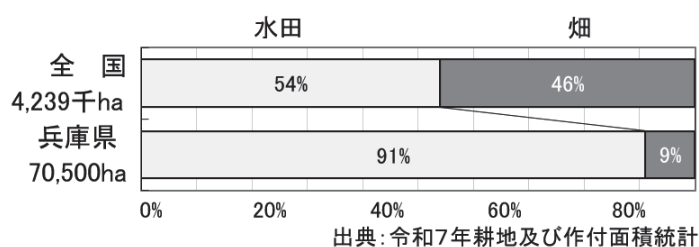
また、降水量の少ない瀬戸内地域や淡路地域を中心に、ため池が数多く築造されており、農業用水の約半分はため池に依存しています。



基幹的農業従事者の年齢構成比（令和2年）



耕地面積の構成比（令和7年）

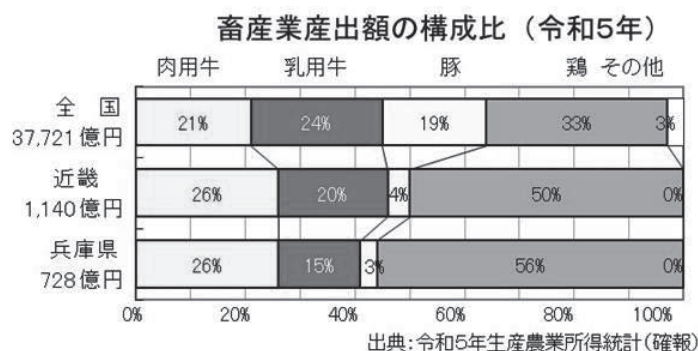


●畜産業の現状

本県の畜産業の産出額は728億円（全国14位）で、近畿地方（6府県）の64%を占めています。家畜別では、肉用牛が186億円、乳用牛が110億円、豚が20億円、鶏が411億円となっています。

家畜の飼育状況は、肉用牛が57,200頭（全国10位）、乳用牛が11,600頭（全国14位）、豚20,000頭（全国37位）、採卵鶏が565万羽（全国12位）、肉用鶏が241万羽（全国12位）となっています。

肉用牛は県内全域で飼育されていますが、そのうち繁殖雌牛は45%が淡路地域で、25%が但馬地域で飼育されています。乳用牛は38%が播磨地域、33%が淡路地域で飼育されており、採卵鶏は87%が播磨地域で、肉用鶏は70%が但馬地域で飼育されています。



●林業の現状

本県の森林面積は 560,037ha(全国 14 位)で、県土に占める森林の割合は全国とほぼ同じ 67%ですが、そのうち、個人や集落が所有している民有林は 529,765ha で、その割合は 95%と全国と比べて極めて高い状況です。

また、民有林の 42% (221,738ha) をスギ、ヒノキ等の人工林が占めており、そのうち、伐採して利用が可能とされる 46 年生 (10 齢級) 以上の森林が 75%を占めています。

県内林業就業者の総数は、平成 12 年 1,485 人から令和 6 年 740 人と半減するものの、60 歳未満の労働者数は維持しており、年齢構成が若返ってきています。

林業産出額は 40.7 億円で、このうち木材生産は 30.6 億円 (76%) であり、針葉樹の産出額が 97%を占めています。また、栽培きのご類は 7.6 億 (18%) で、このうち、生しいたげが 92%を占めています。

●水産業の現状

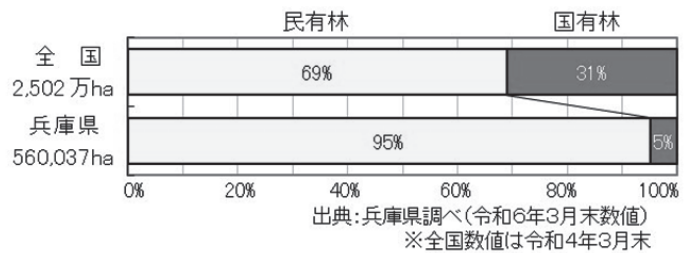
本県の漁業産出額は 609 億円で、全国 8 位(シェア 4%)に位置するとともに、近畿地方 (6 府県) の 70%を占めています。

日本海では、冬季風浪が厳しく、浅海域が少ないことから、大型船による沖合漁業が中心で、ズワイガニ、エビ類、ベニズワイガニ、ホタルイカ、カレイ類、ハタハタなどが漁獲されています。

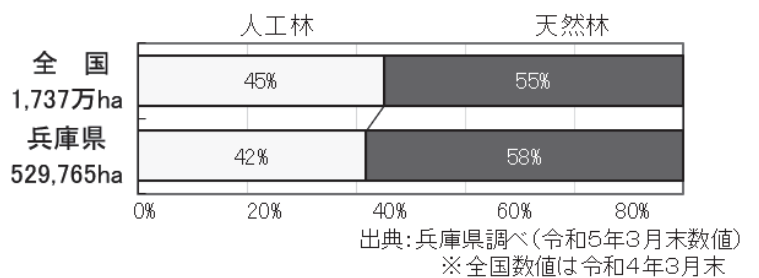
瀬戸内海では、比較的水深が浅く、波浪が穏やかなことから、10 t 未満の小型船による沿岸漁業が中心となり、シラス、マダイ、タコ、イカナゴなどが漁獲されています。また、ノリやカキ等の養殖業も盛んで、特にノリ養殖の生産額は 236 億円と瀬戸内海の漁業産出額の 46%を占めています。

シラス、イカナゴ、ホタルイカ、マダイ、ノリ養殖が全国 1 位、エビ類、ズワイガニ、スズキ類が同 2 位など、生産量が全国順位の上位を占める水産物も多く、重要な地域資源として各地域の活性化に寄与しています。

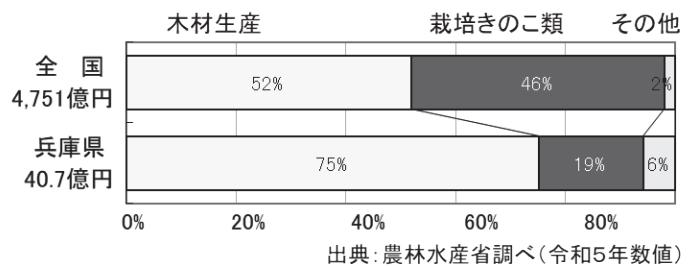
森林の構成比 (令和5年)



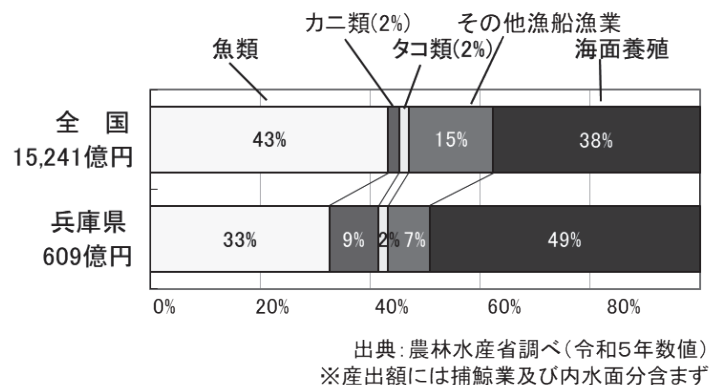
民有林の構成比 (令和5年)



林業産出額の構成比 (令和5年)



漁業産出額の構成比 (令和5年)



海域別の漁業産出額の構成比(令和5年)

